

13 和束町の建造物調査

岸 泰子

1. 概要

和束町が実施している和束町史編さん事業において、同町内の歴史的建造物を調査している。2020年度は新型コロナウイルス感染症の影響で調査を予定通り行うことができなかった。特に、個別調査、聞き取りを伴う調査は中断している。そのなかで、2020年11月27日には原山地区の悉皆調査を実施した。悉皆調査とは、地区を踏査し、地区にある寺社、民家、公共建築などをすべて目視で確認し、地区内にどのくらいまたどのような歴史的建造物が残っているのかを判断する調査である。これが地域の文化遺産の基礎的調査、すなわち歴史的建造物の分布がわかる資料となる。また、そのなかから詳細調査（二次調査）の対象を抽出することも目的としている。参加者は、感染症の影響を考慮し、岸と和束町史編さん室メンバーのみとした。

2. 成果

原山地区は、和束町のほぼ中心に位置する地区である。谷筋に集落が形成され、それを取り囲むように茶畑が広がる。

地区のなかには前近代の建物は存在しない。生業にかかわるものとして、19世紀後期ならびに20世紀前期建設と思われる茶工場の遺構をいくつか確認した。また、地区に3箇所の水場が残っていることを確認した。地区の人々が洗濯や野菜の水洗いなどに使っていたという。これらは地区の生活のありかたを知りうる遺構であり、保存が望まれる。

また、当地区は鷲峰山・金胎寺の麓にある。同寺への参道が地区内を通っており、丁石なども残っている。また、地区内には宿坊のひとつであった谷之坊がある。目視ではあるが、19世紀後期の建物であると思われる。なお、この地区では同寺に取れた茶を奉納していたという。なども行われていたという。和束では茶産業に注目が集まりがちであるが、信仰という側面からも地区の特性を捉える必要があることが把握できた。これらの成果をもとに今後二次調査を展開する予定である。



写真1 谷之坊